

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第41号

発行年月 2021年2月
発行所 岡山県訪問看護ステーション
連絡協議会
〒700-0805 岡山市北区兵団4-39
岡山県看護研修センター3階
TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
http://okayama.houmonkango.net/
E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
発行責任者 江田 純子

今年度は、地域の訪問看護ステーション間や関係機関とのネットワーク強化のため、「晴れやかネット拡張機能ケアキャビネット」への加入を推進し、研修・集会・入退院支援・担当者会議等に広く活用していただく取り組みを始めたところです。

今後も、現場の声をお届けいただき、一緒に訪問看護の課題に取り組み、安定した訪問看護事業が継続できるよう、努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は、当協議会の活動に対し多大なるご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

皆様には、新型コロナウイルス感染症対策に尽力されながら、在宅看護の最前線で療養者の望む暮らしが実現できるよう訪問看護実践に努めておられることに対し敬意を表し感謝申し上げます。



一般社団法人岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

会長 江田 純子

令和三年
新年あいさつ

訪問看護ステーションとともに 「地域包括ケア」の発展に貢献します

重井医学研究所附属病院
院長 真鍋 康二

岡山市西部に位置して、早島町と倉敷市東部に接した当院では、この地域の「地域包括ケア」の中心的役割を果たすことを目指しています。そのためには、当院の2つの地域包括ケア病棟とともに、「訪問看護ステーション」の活躍が必須であり、私たちは訪問看護とともに地域に安心を提供できる病院となるように努力しています。

現在、新型コロナウイルス感染症によって様々な困難をきたしており、訪問看護においても緊張が続き、ご苦労されている事と察します。コロナ禍の中、ご家族と患者さんが一緒にいたいという要望による在宅療養へのシフトがみられ、在宅療養支援の拠点としての訪問看護への期待がますます高まっています。訪問看護ステーション連絡協議会の更なるご発展に期待しております。

賛助会員
からの
メッセージ

「看薬連携が生み出す可能性」

トマト薬局

岡山エリア責任者 石元 秀和

ここ数年「薬剤師」が在宅医療に関わる機会が増えておりますが、それに伴って訪問看護師の方々との連携事例について、私自身多くのところで耳にするようになりました。我々も、特に服薬や副作用に関して、訪問看護師さんからの情報提供がきっかけで解決に向かう事をよく経験します。また、最近では在宅緩和ケアにおいて、訪問看護師さんから主治医の先生に薬剤師の活用を提言して下さり、結果、医療用麻薬の注射による疼痛コントロールに繋がった事例もありました。両職種の方強い連携によって、地域医療に様々な可能性を生み出すことが出来ると思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。

ステーションからのリレーだより

邑久訪問看護ステーション

管理者 羽原 あずさ

1999年1月1日に設立され、瀬戸内市唯一の訪問看護ステーションとして21年間、地域の皆様とともに歩んでいます。スタッフは変わっても「安心・笑顔・まごころ」をモットーにお一人お一人の気持ちを尊重し、住み慣れたご自宅で安心して療養生活が送れるよう、心に寄り添える看護を心がけています。現在は牛窓から西大寺、備前市の一部まで訪問させていただいています。晴れている時には、牛窓の高台からの眺めが最高の癒しとなっています。

すばる訪問看護ステーション

管理者 富田 佳子

すばる訪問看護ステーションは、平成8年7月に総社市にある「さかえ外科内科クリニック」に併設された現在看護師3名の小ぢんまりとしたステーションです。25年近く前より、これからの地域での在宅療養の必要性を考えられ開設されました。

総社では、画像を含め色々な情報交換にケアキャビネット「きびきび」が活用されています。住み慣れた場所で生活するという選択肢が安心して選べるよう、利用者様、ご家族を支えるチームとして、スタッフ一同、他種職の方々との連携を取りながら頑張っています！

すまいるポック訪問看護ステーションおかやま(岡山C)

管理者 曾根田 孝子

令和2年9月に岡山市北区田中172-106に開設致しました。

精神科領域の看護に特化し、精神疾患を抱えた方がその人らしく住み慣れた地域で過ごしていける事を目指しています。

当ステーションでは、精神科及び一般科病棟での経験豊かな看護師や精神科訪問看護研修受講修了者が働いております。その為、困難事例等に対しても看護師一人に対応するのではなく、スタッフで話し合いお互いにサポートできる体制が整っております。

私たちに任せて頂けたら、その方の目指す生活を一緒に考え、その方らしく生活できるよう、支えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

精神科領域のみで頑張っていきます。よろしくお願いします。

相談電話番号：086-259-4563 (代表)

受付時間：月曜～金曜日(9時～17時)

新設のステーション
紹介

Lively

訪問看護ステーションライブリー(倉敷・総社)

管理者 石井 紀美子

令和2年9月、倉敷市に開所いたしました訪問看護ステーション「Lively」(ライブリー=いきいき)です。

- 倉敷市で精神疾患を有する利用者様が、地域でいきいきした生活を送れるよう支援することを理念に掲げています。精神科の臨床経験をもった保健師、看護師、作業療法士が在籍しています。症状観察、疾病教育、薬物治療継続への支援、対人コミュニケーションスキル向上に向けた支援など、利用者様一人ひとりの価値観や生活史、ペースを大切にしながら寄り添っていただける精神科訪問看護ステーションを目指します。

「在宅看護における新型コロナウイルス感染対策Q&A」研修会に参加して

そよかぜ訪問看護ステーション 管理者 下村 明世

9月23日、「在宅ケアアドバイザー派遣事業(県看護協会)」を利用して、岡山済生会外来センター病院感染管理認定看護師の友野良美先生による「在宅における新型コロナウイルス感染対策」について指導していただきました。研修内容として在宅看護だからといって特別な感染対策ではなく、まずは基本的な感染対策が大切であること、次に発熱者への対応や家族への感染対策指導、県外から帰省された家族への感染対策、また事前調査による質問の回答も組み込まれており、わかりやすく研修いただきました。現場では、色々な情報が氾濫している中、判断に困ることもあります。今回参加し、もやっとしていた疑問が解消し、今後の対応方法が見えてきた研修でした。

新任1～3年相談会・交流会に参加して

訪問看護ステーションわたぼうし
池田 史穂子

私は訪問看護に従事して1年になります。今回この会に参加してみたいな、と思ったきっかけは年齢や経験を両手に抱えたまま訪問看護を続けていく事により、道中にたくさんの落とし物をしながら進んでいくのではないかと感じたからです。どんな景色も見落とすまい、と広い視野で見ながら歩くと小さな事にも気づき生まれます。経験は「今までそんなことはなかった」と視野を狭めてしまい、拾えるはずの気づきを見ることなく通り過ぎてしまう、と考えました。講演の中で佐藤先生がお話しされたアンラーニング(学びほぐし)という言葉に、まさにこれだな、と納得する事ができました。新卒・新任訪問看護師の経験談を聞き、自分を見つめ直す時間となりました。

令和2年度訪問看護講師人材養成研修会のご報告

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会 会長 江田 純子

本年度の「訪問看護講師人材養成研修会」(厚生労働省委託事業、全国訪問看護事業協会主催)は各都道府県で開催され、岡山県では訪問看護師26人と県・市から4人が参加し、二次保健医療圏ごとに分かれ、地域の訪問看護人材の確保・定着、育成に関する課題について、WEBを活用したグループワークを行いました。初めてのWEB会議でしたが、現場の生の声を参加者で共有しながら課題解決のために必要な研修・事業・地区活動等の事業計画を企画し、11月26日のレベルV研修「在宅ケアにおける看護職としてのリーダーシップ」で7人が発表しました。今後、計画をより具体化し、本年度または来年度に事業を実施し、人材の確保・定着に取り組む予定ですので、ご協力をお願いします。

令和2年度岡山市公衆衛生功労者表彰

◎ 地域医療事業功労 市長表彰 ◎

訪問看護ステーションまいんど

都 築 昌 恵

この度大変光栄なことに、岡山市公衆衛生功労者表彰をいただくことができました。私たちの仕事は、地域の各機関の関係者の方々と協力しながら継続できていると痛感しています。私は平成7年から訪問看護に携わり始め、約25年が経ちました。この長い年月続けることが出来たのも、連携させていただいた関係者、出会った利用者や家族、スタッフ全ての方々のおかげだと感謝しかありません。現在このコロナ渦の中、今まで経験したことのない大変な毎日ですが、今後も在宅ケアの充実が図れるよう一層努力していきたいと改めて思っています。どうもありがとうございました。

◎ 精神保健福祉事業功労 保健所長表彰 ◎

みさお山訪問看護ステーション
山 崎 裕 子

この度、岡山市公衆衛生功労賞表彰を承り、誠に光栄なものと存じます。

地域で、精神医療に地道に取り組んできたことが確かなことと、一層の確信を持つことができました。

当ステーションだけでは、患者様の生活全般を支援することは不可能です。行政医療機関、支援団体等、患者様に関わる全ての事業所との連携が、「地域で暮らす」ことを後押しし、患者様の「生活する自信」を支えているものと考えます。

また、精神科看護師として一人ひとりの患者様の疾患にしっかりと向き合い気持ちの表出を量り、医師の治療方針を確実なものにする努力もしてまいりました。今後も、患者様が地域社会で生活できるよう求められることを把握し、必要な支援をしていくことに、引き続き精進しながらこの表彰に慢心することなく努力を重ねていくことを約束いたします。

◎ 地域医療事業功労 保健所長表彰 ◎

訪問看護リハビリステーションたんぼぼ

谷 部 明 子

この度、岡山市公衆衛生功労者表彰をいただき大変光栄に思います。

特別なことを行った記憶はなく気後れいたしますが、今までご支援ご指導して下さった方々に感謝し、謹んで頂戴いたします。

病院勤務を経て訪問看護に関わるようになって9年が経ち振り返ってみると、何もできない私を見守り一緒に考えて下さったご家族や多職種の皆様、落ち込んだときに支えてくれたスタッフ、叱咤激励ご指導して下さった先輩方に感謝いたします。日々の訪問活動の中で、人と関わる看護の本質、喜び、感謝、多くの財産を頂きました。地域の訪問看護師として、感謝の気持ちを忘れず自己研鑽していきたいと思えます。ありがとうございました。



◎ 地域医療事業功労 保健所長表彰 ◎

岡山訪問看護ステーション看護協会
佐 山 純 子 (県看護協会推薦)

今回、はからずも岡山市公衆衛生功労者として表彰いただきましたことを光栄に存じます。訪問看護師として働き始めたばかりのころは、利用者の方の役に立てず、私自身が満足できる看護ができないと落ち込む毎日でした。そんな不甲斐ない私が19年もの間、訪問看護を続けてこられたのも利用者の皆様、スタッフや連携させていただく多職種・関係事業所の方々のご指導ご協力のおかげと心から感謝しております。今後ますます地域での訪問看護師の活躍が期待される中、微力ではありますが今までの経験を後進に伝え、在宅看護に携わる看護職の増加とスキルアップを目指し、地域の皆様と協力し地域包括ケアの拡充を図るべく、いっそう努力してまいります。

第49回読売医療功労賞受賞 (県看護協会推薦)

浅沼節子さん (訪問看護ステーションあんど)

交流会・管理者カフェを企画・開催して

課題検討委員会

委員長 赤瀬佳代

11月21日に多職種交流会と管理者カフェを開催しました。

交流会では「岡山県における新型コロナウイルス感染症対策の概要」を、岡山県保健福祉部医療推進課の唐井幸子様へ情報提供をしていただきました。その後、ケアマネ・通所サービス・訪問看護からコロナ感染症にどのように対応し課題があるかについて話題提供してもらいました。それぞれの現場の現状を知り連携して対応していくことの重要性を認識する機会となりました。

カフェではラダー別教育プログラムの普及のために、実践報告書をもとに活用の可能性について情報交換をしました。コロナ禍であり模索しながらの開催で不手際もありましたが、このような時期だからこそ力を合わせて乗り越えていく必要があり開催できたことに意義を感じております。

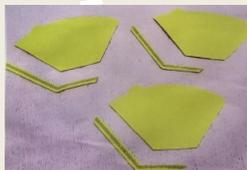
便利グッズの紹介 看護実践に役立つ豆知識

コーヒーフィルターで作る加湿器

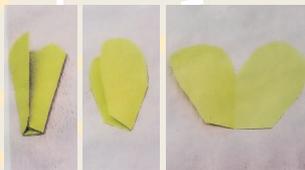
亀龍園訪問看護ステーション
三谷 美笑子

【準備するもの】

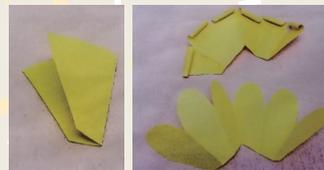
- コーヒーフィルター 3枚
- 爪楊枝か竹串 (花びらをカールさせる為に使用)
- 10円玉 (水の中に入れます。雑菌を抑えると言われています。)
- 輪ゴム 2つ
- ハサミ
- ガラスコップ又はティーカップ (水を入れる物)



① フィルターを3枚重ねて硬い部分を切ります。



② 1枚を半分に切ります。半分に切った1枚を折ってハートの形に切ります。



③ 残りの2枚は重ねて3つ折りにしてカーブを付けて切ります。ハートが3つ連なったようになります。爪楊枝か竹串を使って花びらを外向きにカールさせます。



④ 残りのフィルターで花芯を作ります。斜めに軽く折ります。片方をふんわり巻いていきます。底の部分に切りくずを入れて膨らませます。根本は指で摘まめくくらい残しておきます。



⑤ 花芯に花びらを巻き付けていきます。やり易い巻き方をして下さい。タックを取りながら巻くとやり易いです。



⑥ 初めに切った硬いところに縛るように巻き付け輪ゴムでとめます。(お菓子などに付いているネジワイヤーを使用してもよい)



⑦ 水を入れたコップやティーカップの中に入れてください。

Web研修の取り組みについて

事務局 久米 宏枝

当協議会では、令和2年4月より、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、晴れやかネット拡張機能ケアキャビネットWeb会議システムを利用した研修を導入しています。会場に赴くことなく事業所や自宅でWeb受講することができるため、三密を避け感染対策を講じることができるだけでなく、遠方の事業所様でも研修に参加しやすくなったとのことをお声をいただいています。

通信状況等により、ご参加の皆様にはまだまだご不便をおかけすることも多い現状ですが、より沢山の事業所様にご利用いただけるよう、努力してまいります。

また、Web会議だけでなく、チャットや掲示板の機能等もあり、事業所・医療機関・当協議会との連携の強化にもつながりますので、ケアキャビネットにご加入でない事業所様もどうぞ加入をご検討ください。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、はや1年が過ぎました。「3密」を回避するため雑談タイムや食事会等の機会も減りストレスも溜まりがちです。でも周囲のかたの前向きに仕事に取り組む姿や訪問先での労いの言葉に力づけられ、心がほっこりと温まります。日々の苦労や経験の積み重ねが糧となり、いつか「あの時は大変だったけど、こんな事あって良かったね」と、思い出話に花を咲かせる日が一日も早く訪れますように。皆様、ご自愛ください。

広報委員一同